

科技高いきもの記

Vol.48 2022.4.5

生物教員 佐藤龍平

岩場から聞こえる謎の声 高尾山のタゴガエル

春休みにアウトドアライフ部の活動で高尾山に登った。天気も良く、春の花たちもたくさん咲き始めていて、とても気持ちの良い登山となった。下山途中、沢沿いの登山道を通った時、部員たちが不思議な現象に気付いた。「**がれきの方から鳴き声みたいなのが聞こえる!**」と言うのだ。なんじゃなんじゃと思って駆けつけてみると、確かに登山道の横に積まれた岩場の方から「グウグウッ...」という声が聞こえてくるではないか。いったいなんの声だ?!湧水がポタポタしみ出しているかなり湿った崖の奥の方から聞こえてくる。懐中電灯で照らしながら隙間を隅々探すも、声の正体が一向に見つからない。でもその間も鳴き声は止まない。ここまで見つからないと、本当に生き物の声なのか?と疑いが出てきて、「水が湧き出る音?」「隙間を通る風?」などさまざまな説が浮上してくる。そんな中、ユキヒロとイツキがついに正体を突き止めた。岩の隙間の奥深く、水が溜まったところに**カエルを見つけたのだ!**ほんの数cmの隙間を覗いてかろうじて見える程度だ。おおー!謎の声の正体はカエルの鳴き声だったのか!しかもなんと、岩壁に張り付くように産みつけられた**白い卵も見つかった!**こんなところでカエルが繁殖しているとは驚いた。そして、よくまあこれを見つけたなあ。

調べてみると、これは**タゴガエル**という**山地性のカエル**で、沢沿いの崖の地下の伏流水のあるところで繁殖するという、かなり変わった生態をもつのだそうだ。「**声は聞こえるが姿を見るのは難しい**」と、まさに今回我々が体験した通りのことが書かれていた。生徒から「こんな場所で孵化したオタマジャクシは何を食べるんだ?」という声が上がったが、確かに、川から離れているし、エサは少なそうだ。これも調べてみると、なんとタゴガエルのオタマジャクシは**エサを食べずに変態**して子ガエルになるのだそうだ。そのため、卵黄が発達した大きな卵を少数産むという。卵を外敵から守るためなのか、何とも面白い進化を遂げたものだ。

今回の登山とタゴガエルの産卵シーズンがかぶったのは奇跡的な偶然だが、ちゃんと謎を解き明かそうと探し回ったみんなの探究心が素晴らしい。生徒のおかげで良いものを見させてもらった。



謎の声が聞こえてきた岩場
隙間はあるが、かなり狭く、奥の方
までは見ることができない。



岩の隙間のわずかな空間で鳴く**タゴガエル Rana tagoi**のオス 体長約4cm
カメラを無理やり突っ込んで何とか撮影した。山地の岩場で繁殖する変わった生態のカエルだ。名前は両生類学者の田子勝弥氏にちなむ。



タゴガエル生息地の近くの沢。川の中ではなく、隣の崖で繁殖している。



岩の隙間から覗くと...卵が見えた!白っぽくて、カエルの卵としてはかなり大きい。(卵径約3mm)



外に出てきたオス。繁殖期は腹部の皮膚がたるんでぶよぶよの奇妙な姿になる。繁殖行動を水中で行うため、皮膚呼吸の効率を上げる工夫のようだ。



たまたま外に出てきたペア。上がオスで下がメス。

参考: 日高敏隆(1996), 日本動物大百科5, 平凡社
松井正文(2018), 日本産カエル大鑑, 文一総合出版